

削除した主な項目とその理由

資料4-2	令和5年10月24日
	第32期青少年問題協議会 第2回定例協議会

区分	アンケート内容	詳細・理由
子ども	区内での通算居住期間	居住年数による分析を必要としない。
子ども	おとな（親や先生、スポーツの監督など）からされたこと	過去の辛い経験を思い出させる間で、回答者への心理的負担が大きかった。
子ども	友だちや先輩、後輩からされたこと	高校生等の区分においては、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった要因を包括的に聞く間を入れ、虐待等の辛い経験だけにフォーカスしすぎない内容とした。
子ども	小中学校の頃に家庭で経験したこと	
子ども	小中学校の頃に学校で経験したこと	
保護者	子どもの人数	「子ども・子育て支援事業計画」の見込み量算出に必要な項目ではない。
保護者	お子さんと兄弟の年齢	
保護者	居住年数	
保護者	居住のきっかけ	
保護者	仕事を辞めた理由	
保護者	就労希望がありながら現在働いていない理由	
保護者	育児休業の取得状況	
保護者	病児・病後児保育を利用したいと思わない理由	利用していない理由を聞くのではなく、どのくらい利用したかを聞き、潜在ニーズを把握する。 また訪問型病児・病後児保育については認知度を確認するのではなく、利用したいかどうかを聞くこととし、事業についての説明書きを加えて事業の認知度アップをはかることとする。
保護者	訪問型病児・病後児保育について知っているか	
保護者	中高生センタージャンプを知っているか	単に中高生センタージャンプだけについて聞く間ではなく、他の子ども関連の施設も合わせ、利用の有無や、利用していない理由を尋ねる間とした。
保護者	中高生センタージャンプを利用させたいと思うか	
保護者	中高生が利用できる施設が整備されるとしたらどのような設備が良いか	
保護者	近所で挨拶をする人は多いか	これは保護者の孤立感をはかる間であるが、近所で挨拶をする人が多いか少ないかどうか等の質問は、必ずしも保護者の孤立を示すものではない。 「育児に関する不安や悩みをだれに相談しているか」という間が別に用意されているため、そこで保護者の孤立を把握する。
保護者	職場や地域などであなたの話を聞いてくれる人はいるか	
保護者	お子さんのホッとできる場所はどこだと思うか	子ども本人に直接聞いている間であり、保護者の認識を分析する必要性がない。
保護者	お子さんには安心して自分の気持ちや悩みを話せるおとながいるか	
保護者	お子さんは、自分が親や周りのおとな、友達から大切にされていると感じていると思うか	
保護者	お子さんは、自分のことが好きだと思っていると思うか	
保護者	お子さんは、自分が友だちや親など周りの人の役に立っていると思っていると思うか	
保護者		
職員・団体	性別・年齢	回答者属性チェックやクロス集計の予定がない。
職員・団体	職場・地域の団体の活動の中で接する子どもにとってホッとできる場所	子ども本人に直接聞いている間であり、職員・団体の認識を分析する必要性がない。
職員・団体	保護者の方々が子育てに対してどのような施策を求めているか	「保護者の方がどのような施策を求めているか」ではなく、回答者ご本人（地域団体の方や区職員）が子ども・子育て施策にどのような問題意識を持っているかを直接的に聞く間に変更する。